

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
302	川崎市立 幸高等学校	安藤 勉

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
1 広く豊かな心と教養を持ち、自主的精神と態度を身につけた誠実清楚な人間を育成する。 2 礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応できる力を育成する。 3 確かな学力を身につけ、専門的かつ国際的な視野を持ち、自己の可能性を追求する力を育成する。	◎豊かな心の育成 ◎確かな学力の育成 ◎魅力ある学校づくり ◎安心・安全な学校づくり	・授業力向上に資する研修・研究の推進 ・「課題研究」「総合的な探究の時間(幸探究)」を核とした主体的・協働的な学習の充実 ・自立・自己実現を図る教育活動の推進 ・令和4年度より実施の新教育課程編成に向けてのグランドデザインの作成

評価項目	具体的な取組	実現状況と課題	具体的な改善策
1 学習指導	「わかる授業」の実践のための授業の工夫	学年が上がるにつれ、わかりにくいと感じている生徒の割合が高くなっている。	難易度の高い科目の授業の工夫を一層図る。
	基礎学力の確実な定着に向けた授業展開	授業展開は概ね実現できている。しかし、基礎学力が確実に定着しているとまでは言えない。	基礎学力の確実な定着に向けて改善を図る。
	主体的な学習の充実	教員の主体的な学習の充実への取組みは、年度当初の臨時休業のため、昨年度よりやや消極的になった。しかし、生徒は概ね積極的な姿勢で授業に臨んでいる。	更なる教材研究と校内OJTにより、授業力向上を図る。
	協働的な学習の充実	新型コロナ感染予防のため積極的な取組みはできなかった。しかし、仲間とのグループ学習を通して学びを深めることができたという認識の生徒が多い。	感染予防をしながらの協働的な学習の進め方を検討する。
	探究的な学習や課題解決型学習を取り入れた授業の実施	普通科「幸探究」を核に取組みを進めている。取組みは広がっているが、まだ取り組めていない科目もある。	普通科は「幸探究」を、ビジネス教養科は「課題研究」を核にした取組みを更に進める。
	思考力・判断力・表現力を伸ばす学習活動の実施	思考力・判断力・表現力を伸ばす学習活動は行われているが、自分の考えをまとめたり発表したりする力が身に付いていないと感じている生徒が多い。	更なる教材研究と校内OJTにより、授業力向上を図る。
	情報機器を利用した授業展開	電子黒板の積極的な利用が進んでいる。	活用の仕方を広げていく。
	家庭学習の定着に向けた自発的な学習の推進	教員、生徒ともに不十分であるという認識をしている者が多い。	スタディサプリの活用の仕方やその他の取組みを検討する。
	進路実現に適したカリキュラムの作成	令和3年度普通科3年の地歴科の選択科目を改編したが、理系の大学志望者にとっては不十分な部分がある。	令和4年度から実施する新教育課程で改善を図る。
2 生徒指導	規律ある習慣を確立させるための指導	多くの生徒が節度を守って規律ある生活を送ることができた。保護者も同様に認識している。スマートフォンの使用については、新しい基準で指導にあたり、改善が見られたが、ルールが守られていないことが度々あった。	スマートフォンの使用に関するより効果的な指導策を検討する。
	自他の個性の尊重と互いに思いやる心を育てる指導	昨年度より教員の取組みは上がっている。ほとんどの生徒が思いやりをの気持ちを持って人と接している。	共生・共育プログラムを道徳教育の指導計画に位置付けて実施し、その効果測定の結果を活用した観察を行う。
	身だしなみやことばづかひの指導	多くの生徒は正しい身だしなみやことばづかひを心がけているという認識ではあるが、不十分な点もある。	生徒へ根拠を十分に説明し、ルールの理解を深めさせる。
3 安全・保健管理	災害から身を守る防災教育を通して自助・共助の精神の養育	臨時休業のため、昨年度より防災教育の時間が減ってしまった。また、密になることを避けるため、避難訓練も例年と違う形での取組みになった。その影響か、昨年度より防災意識が高まった生徒は少なかつ	密にならない形での防災訓練の方法の検討と防災訓練後の振り返り指導を充実させる。
	交通安全指導の充実	様々な方法で交通安全指導を行い、ほとんどの生徒は登下校の際に交通ルールを守ることができた、という認識を持てた。しかし、自転車に関する事故や苦情があり、十分とは言えない。	交通安全指導を徹底する。
	自分の健康を守ろうとする態度の養成	感染症予防の取組みを契機に、自分の健康管理を心がける生徒が増えた。	今後も感染症予防を中心に取組みを継続する。
	安全で衛生的な教室環境作り	感染症予防のため消毒、換気に努め、例年以上に安全で衛生的な教室環境を整えた。多くの生徒が、学校では整理整頓や美化を心がけている。しかし、家庭ではできていないという生徒がかなりいるようである。	今後も感染症予防を中心に取組みを継続する。
4 進路指導	系統的・計画的な進路指導の実現と職業観の育成	希望する進路を実現するための指導が充実していると感じている生徒が昨年度より増えた。	インターンシップとアカデミック・インターンシップを拡充させる。
	主体的な進路選択に対する支援	将来の進路について「とても意識することができた」という認識の生徒が昨年度より増えた。	今後も取組みの充実を図る。
	能力や適性を活かした進路選択に向けた指導	自分の適性を把握する機会があったと多くの生徒が認識している。	更に学習会等を充実する。
5 特別活動	集団の中でひとりひとりが個性と力を発揮できるよう指導	感染症予防のため、生徒会役員を中心に工夫をして学校祭やその他の行事を実施したものの、クラスや委員会、行事等で自分の役割を自覚し、積極的に参加できたという認識の生徒は昨年度よりやや減った。規模が縮小されたことの影響が大きい。	生徒主体に感染症予防策を執りながらの行事のやり方を工夫する。
	課題を共有し合意形成できるよう話し合いを促す指導	話し合いに参加して協力してものごとを決めるということに対しては、生徒にやや消極的な傾向が見られる。	身近な学校生活上の諸課題を話し合う機会を設ける。
	生徒自らが責任感や連帯感を養い、活動意欲を高める指導	部活動や生徒会行事、学級活動に加え、学年行事も企画させる等、取組みが増えた。	今後も取組みを継続する。
6 教育環境整備	学校施設、備品の管理と充実	施設、設備については概ね好評であるが、トイレに関する不満は大変多い。また、老朽化による雨漏りやその他の不具合も多い。すぐに修繕できるものは対処しているが、雨漏り等、大規模修繕を待つしかないものもある。	令和3、4年度実施予定のトイレ改善工事が事教育活動に支障なく円滑に進むようにする。
7 開かれた学校づくり	開かれた学校づくりを通じた学校評価の充実	学校評価アンケートを、学校経営目標がチェックしやすいものとなるよう質問項目を見直した。	アンケート項目の見直しに問題がなかったかを点検する。
	保護者への情報提供や連絡	学校からの情報提供に不足を感じている保護者が3割弱いる。個別の連絡は昨年度同様、密に行われている。プリントが保護者へ渡っていないことも多く、一斉に何をどのように情報提供するか課題である。	川崎市の新しい情報配信システムを活用する。
	地域との連携を図る取組みや外部への情報発信	感染症予防のため、地域での活動は中止または縮小を余儀なくされた。中学生向け学校説明会も人数を制限しての実施となった。しかし、「課題研究」や「幸探究」の授業では地域と連携した活動に取り組んだ。情報発信については、不十分な点がある。	ホームページを活用した情報発信を充実する。

学校関係者の評価	今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて
<p>今年度は感染症予防のため学校教育推進会議の開催を中止し、資料を推進委員に送付した。また、PTA活動も自粛となり、ほとんど活動がなかった。そのため、学校関係者からまとめた意見を聴取できなかった。</p> <p>学校評価保護者アンケートから、「我が子の成長を実感することができた」の回答が87%ある等、本校の教育活動が全般的に支持されていることが読み取れる。特に、学校教育目標「礼儀と秩序を尊重し、責任感と協調性を持ち、社会の変化に対応できる力を育成する」に関連する項目は評価が高い。しかし、「自発的な家庭学習の時間が増加した」「教育課程が進路実現に適するものとなっている」という項目の評価は低い。また、自由記述欄には、修学旅行への不安、文化祭が非公開となったことへの補完的対応を望む声が複数寄せられた。</p>	<p>○ 全体的には、新型コロナ感染症拡大の中、中止や縮小を迫られた教育活動以外については概ね目標に沿って学校運営を進めることができた。</p> <p>○ 今年度の重点目標については、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業力向上に資する研修・研究の推進」については、校内で授業を見合う週間を2回設定し、小グループで振り返りグループ協議を行い、授業力向上に資する研修・研究を推進した。「他教科の授業を参考にできた点が良かった」という意見が多かった。授業改善が進むことが期待できる。 ・『『課題研究』『総合的な探究の時間』を核とした主体的・協働的な学習の充実』については、これまでの高大連携事業「主体的学習者育成プログラム」に加え、外部団体モチラボの講師が来校し、生徒と教員がアドバイスを受けて探究学習を進めた。2年普通科「幸探究」では幸区役所とタイアップした地域探究に、2年ビジネス教養科では沖縄県浦添商業との交流学习と新しい取組みも行った。こうした取組みから、生徒の探究型学習に取り組む姿勢は積極的になり、現実的、具体的な提言をできるグループが増えた。探究活動は、本校の今後のグランドデザインの核となるものである。今年度の取組みを次年度以降も継続し、拡充を図っていく。 ・「自立・自己実現を図る教育活動の推進」については、就職希望者の指導の進め方の見直し、就職先とのミスマッチを減らすことを目指した。進学指導では、大学入試の新制度に関する情報提供を十分に行うとともに、説明会から入試までオンラインでの実施となった上級学校も多く、生徒が受験できないということないよう指導した。 ・「令和4年度より実施の新教育課程編成の作成」については、学科別にグランドデザインを作成し、それに沿って新教育課程の編成を進めることができた。しかし、完成には至っていないので、次年度早期完成を目指す。本校の新グランドデザインの広報にも努めていく。 <p>○ 次年度新たに取り組むべき課題は、「GIGAスクール構想」の導入準備である。令和4年度入学生から、本校でも生徒一人一台のコンピュータ端末を持つことが決まった。職員の対応体制を整え、授業での活用方法の研究・研修に取り組んでいく。</p>